

[成果情報名] 平坦地における小型キャベツ「甘乙女」を用いた連続栽培体系

[要約] 小型キャベツの有望品種「甘乙女」は結球重が 600g 程度で、最短で定植後 50 日で収穫が可能である。本県平坦地においては、不織布のべたがけ、ビニールトンネル、ハウス栽培を組み合わせることで、5 月上旬から 7 月上旬までと、10 月上旬から 1 月上旬まで連続的に収穫できる。

[担当] 総農セ・栽培部・野菜科・對木啓介

[分類] 技術・普及

[課題の要請元]

(旧)北巨摩農業改良普及センター

[背景・ねらい]

従来の野菜より小型である“ミニ野菜”は、少量多品目消費の傾向や、食味の良さなどといった特徴から注目されている。

直売所で人気のキャベツにおいても、小型品種が販売され始めたが、各品種の特性や本県に適した作型は明らかになっていないため、これらを明らかにし直売所の品揃え充実の一助とする。

[成果の内容・特徴]

- 1．結球重が 600g、球高、球径が 13～14cm 程度の大きさで、球葉色は淡緑のボール型キャベツである（図 1、表 1）。
- 2．外葉は対照品種に比べ小さく、株張りはコンパクトである（表 1）。
- 3．最短で定植後 50 日で収穫が可能である（表 1、図 2）。
- 4．不織布のべたがけ、ビニールトンネル、ハウス栽培を組み合わせることで、5 月上旬から 7 月上旬までと、10 月上旬から 1 月上旬まで連続的に収穫できる（図 2）。
- 5．栽植密度は 7272 株/10a（うね幅 110cm、株間 25cm、2 条千鳥植え）とする。

[成果の活用上の留意点]

- 1．収穫の遅れは品質低下を招くので適期収穫を行う。

[期待される効果]

- 1．“使い切りサイズ”の小型キャベツとして、直売所販売や小売店との契約栽培などで生産振興が期待でき、直売所では販売品目充実による活性化の一助となる。

[具体的データ]

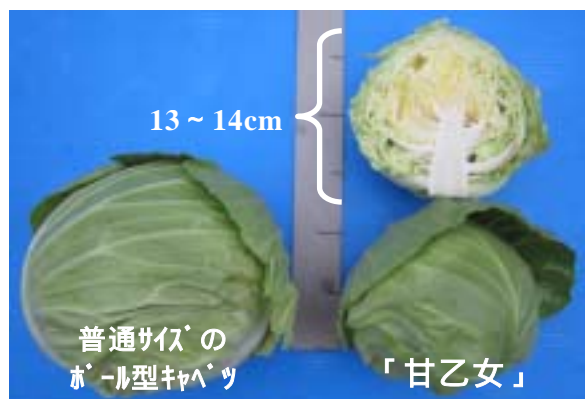


図1 小型キャベツ「甘乙女」

表1 品種特性 (2006年)

品種名	結球重 (g)	球高 (cm)	球径 (cm)	葉身長 ^{z)} (cm)	葉身幅 ^{z)} (cm)	収穫期	定植後 収穫迄 日数
甘乙女	620	13.7	14.5	32.6	29.5	10/16	49
グリーンホール(対照)	881	15.3	15.4	39.5	31.1	10/25	58

z) 各株最大の外葉を計測

(耕種概要) 播種:8/1 定植日:8/28 施肥量:N - P₂O₅ - K₂O=20 - 20 - 20 kg/10a 苦土石灰:150kg/10a
栽植様式:うね幅110cm 株間25cm 2条干鳥植え(7272株/10a)

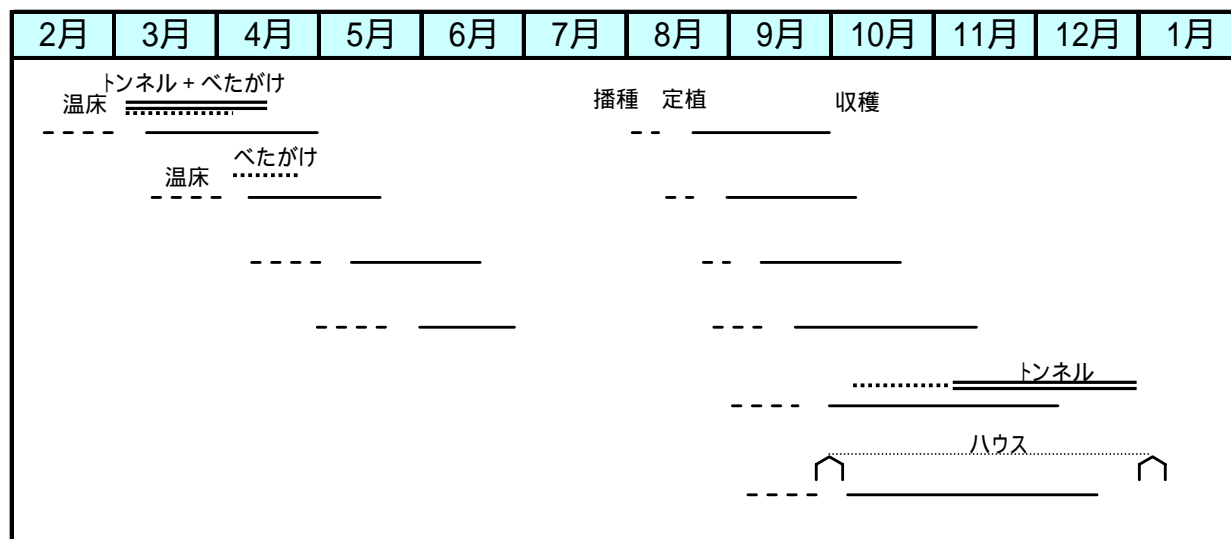


図2 小型キャベツ「甘乙女」の連続栽培モデル

==== トンネル(穴あき農PO(開孔率1.5%)) べたがけ(長繊維不織布)

[その他]

研究課題名: 直売向け野菜における品種特性の把握と生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2005 ~ 2007 年度